

# 8 月定例教育委員会会議録

開催年月日	令和元年 8 月 2 1 日(水)												
開催日時	午後 3 時 0 0 分												
開催場所	別館 3 階 大会議室												
出席委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教育長 三笥 眞治郎</td> <td style="width: 50%;">職務代理者 諫 本 憲 司</td> </tr> <tr> <td>委員 永 山 眞 江</td> <td>委員 岡 部 博 昭</td> </tr> <tr> <td>委員 古 田 嘉 寿 美</td> <td>委員 奥 平 和 子</td> </tr> </table>	教育長 三笥 眞治郎	職務代理者 諫 本 憲 司	委員 永 山 眞 江	委員 岡 部 博 昭	委員 古 田 嘉 寿 美	委員 奥 平 和 子						
教育長 三笥 眞治郎	職務代理者 諫 本 憲 司												
委員 永 山 眞 江	委員 岡 部 博 昭												
委員 古 田 嘉 寿 美	委員 奥 平 和 子												
出席参与	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教育次長 河野 徹</td> <td style="width: 50%;">教育総務課長 衣笠 雄司</td> </tr> <tr> <td>学校教育課長 西胤 英明</td> <td>社会教育課長 梶原 文人</td> </tr> <tr> <td>文化財保護課長 宮本 達美</td> <td>兼 博物館長</td> </tr> <tr> <td>威宜園教育研究センター長 橋本 隆文</td> <td>淡窓図書館長 林 純子</td> </tr> <tr> <td>兼 世界遺産推進室長</td> <td>スポーツ振興課長 河津成一郎</td> </tr> <tr> <td>学校給食課長 池内 誠治</td> <td>人権・同和教育課長 伊藤 伸也</td> </tr> </table>	教育次長 河野 徹	教育総務課長 衣笠 雄司	学校教育課長 西胤 英明	社会教育課長 梶原 文人	文化財保護課長 宮本 達美	兼 博物館長	威宜園教育研究センター長 橋本 隆文	淡窓図書館長 林 純子	兼 世界遺産推進室長	スポーツ振興課長 河津成一郎	学校給食課長 池内 誠治	人権・同和教育課長 伊藤 伸也
教育次長 河野 徹	教育総務課長 衣笠 雄司												
学校教育課長 西胤 英明	社会教育課長 梶原 文人												
文化財保護課長 宮本 達美	兼 博物館長												
威宜園教育研究センター長 橋本 隆文	淡窓図書館長 林 純子												
兼 世界遺産推進室長	スポーツ振興課長 河津成一郎												
学校給食課長 池内 誠治	人権・同和教育課長 伊藤 伸也												
書記	教育総務課 総務企画係 主幹 (総括) 塚原 美保												
附議議案	<p>議案第 55 号 令和元年度日田市一般会計補正予算教育費について</p> <p>報告第 12 号 令和元年 7 月期寄附採納について</p> <p>報告第 13 号 平成 31 年度 (令和元年度) 大分県学力定着状況調査結果について</p> <p>報告第 14 号 平成 31 年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査結果について</p>												

<p>教 育 長</p>	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>ただいまから8月定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>前回の議事録の確認でございますが、議事録については変更はございませんでしょうか。（「ありません」と呼ぶ者あり）御了解いただきましたら、本会議終了後に御署名をお願いいたします。</p> <p>続きまして、教育長の報告事項でございますが、お手元に配付しております一般報告資料により報告にかえさせていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、早速議事に入りたいと思っております。</p> <p>議案第55号について説明をお願いいたします。</p>
<p>書 記</p>	<p>それでは、議案第55号、令和元年度日田市一般会計補正予算教育費につきまして、別冊1の資料で御説明をいたします。</p> <p>はじめに令和元年度9月補正予算の概要についてでございます。資料の1ページをご覧ください。</p> <p>ナンバー1、小学校通学補助事業でございます。本事業は、学校統廃合により遠距離となり、交通機関を利用して通学することとなった児童及び片道4キロメートル以上の遠距離から通学する児童について、保護者の負担軽減のため、定期券や補助金の交付等を行うものでございます。</p> <p>当初予算におきまして、定期券給付を予定しておりました2名のうち、定期バスの減便に伴う対象者1名の減による補助金の減額と、定期券給付者で6時間目終了時以外の時間に下校する際にバスの便がないため、タクシー借り上げで対応している1名につきまして、当初見込みよりタクシー利用回数が増加したため、不足する使用料につきまして増額の補正要求を行うものでございます。なお、定期バス減便対象者につきましては、スクールタクシーで対応を行っております。</p> <p>補正の内訳につきましては、右側の内訳のとおり、使用料及び賃借料が12万4千円の増額、負担金・補助及び交付金が7万円の減額で、合計5万4千円の増額でございます。増額分の財源につきましては、全額一般財源でございます。</p> <p>次に、資料2ページ、ナンバー2、豆田地区日田祇園山鉾収納庫整備事業でございます。本事業は山鉾収納庫を持たない豆田上町、豆田下町の2町の山鉾収納庫を豆田地区に建設するに当たりまして、用地整備工事を行うものでございます。</p> <p>市教委が実施します用地整備工事につきましては、当初平成30年度予算に計上し、収納庫本体の竣工後に施工予定としてお</p>

	<p>りましたが、部材の一部が全国的な供給不足となり、収納庫の竣工時期が未定となったため、予算を一旦減額し、適切な時期に再度計上することとしていたものでございます。</p> <p>今回、収納庫が令和元年10月末に竣工見込みとなったため、用地整備に係る工事請負費を補正要求するものです。</p> <p>用地整備工事のスケジュールは右側の事業スケジュールの2つ目に記載のとおり、令和元年11月から令和2年3月までの予定で、補正の内訳は工事請負費が1千858万6千円の増額、財源は全額一般財源でございます。</p> <p>資料の3ページをご覧ください。用地整備工事に係る図面でございますが、収納庫及び倉庫と記載されている区画のうち、それぞれピンク色の各2棟ずつが実際に建設中のものでございます。</p> <p>このうち、舗装工事につきましては、図面の左側の市道から収納庫の敷地部分までの薄いグレーの部分につきましては、山鉾の本体がその上を移動するため、コンクリート舗装を行うこととしております。それ以外のブルーの部分につきましては、排水性舗装を行い、あわせて敷地の南側から市道までの間に側溝を整備する排水工事を行うこととしております。</p> <p>以上が補正の概要でございます。4ページには歳出の明細書を記載しております。</p> <p>議案第55号、令和元年度日田市一般会計補正予算教育費につきましては、以上でございます。</p>
教 育 長	<p>議案第55号について説明がございました。 これについて何か御質疑ございますでしょうか。</p>
永 山 委 員	<p>1番のタクシーの補正額の件なんですが、通学手段がないお子さんにとってとてもありがたいんですけど、これは上限があるのかを教えてくださいいただけますか。補助額で、例えば年間とか、学期ごととか上限が決まっているんですか。</p>
教育総務課長	<p>通学費補助につきましては、基本的に路線がある区間につきましては、その路線間の公共料金の定期券の現物給付になりますので、実際に定期券を市教委で購入し、それをお渡しするというものですから、当然上限というのはその金額ということになります。</p>

永山委員	定期代の金額ということですか。
教育総務課長	<p>定期代は定まっております、その金額の定期券を支給いたしますので、具体的に幾らを上限とするということはありません。ただ、公共交通機関のない区間につきましては、保護者送迎等に対する現金給付ということで、これは距離に応じて小学生でいうと4キロメートル以上、中学生は6キロメートル以上に対して、6,000円から距離に応じて加算で8,000円とかいう形で金額を定めています。これはいわゆるガソリン代相当というか、送迎にかかる経費の一部を補てんする形で、現金支給については距離に応じた金額支給となっております。</p>
教育長	<p>ほかにございませんでしょうか。</p> <p>それでは、質疑がないようでございますので、議案第55号につきましては、原案のとおり可決してもよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）</p> <p>議案第55号、令和元年度日田市一般会計補正予算教育費については、原案のとおり可決されました。</p> <p>議案は以上でございます。続きまして、報告事項になります。報告第12号について説明をお願いいたします。</p>
書記	<p>それでは、議案集の2ページをお願いいたします。</p> <p>報告第12号、令和元年7月期の寄附採納についてでございます。</p> <p>地区寄附の採納が1団体1件でございます。有田小学校育友会様から有田小学校へ、55型の大型液晶テレビ、移動用スタンド付き、6万594円相当を授業で活用していただきたいということで、御寄附いただいております。</p> <p>7月につきましては、以上1件の御寄附をいただいております。報告第12号につきましては、以上でございます。</p>
教育長	<p>報告第12号についての説明でございましたけども、何か御質疑等ございませんか。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）</p> <p>それでは続きまして、報告第13号について説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>報告第13号、平成31年度（令和元年度）大分県学力定着状況調査の結果についてでございます。別冊2をご覧ください。</p>

1 ページをお願いします。はじめに調査の概要についてでございます。

実施期日は平成31年4月23日、対象学年は小学校5年生と中学校2年生です。

調査内容につきましては、小学校5年生は国語、算数、理科の3教科、中学校2年生は国語、数学、理科、英語、社会の5教科と、小中あわせて学習・生活に関する質問紙調査でございます。

調査結果でございますが、色付きの部分は偏差値が50以上のところでございます。

まず、小学校5年生の結果です。表の色つき部分でわかりますように、全ての教科全体とそれぞれの教科の知識・活用のあわせて6項目全てで偏差値50以上を達成しており、着実に学力の定着が図られております。

次に、中学校の結果ですが、教科全体の偏差値は数学を除いて50を上回りました。また、それぞれの教科の知識・活用のあわせて10項目のうち、数学の活用と理科の知識については、偏差値50に達しませんでした。残りの8項目につきましては、偏差値50以上の結果となっております。この結果から、理数に若干の課題が認められるものの、中学校においてもおおむね標準的な学力の定着が図られているという結果でございます。

2 ページをご覧ください。小学校5年生及び中学校2年生の過去5年間の偏差値の推移を示しております。

まず、小学校5年生におきましては、偏差値が51から53で推移しており、安定して学力の定着が図られていることがわかります。

次に、中学校2年生におきましては、本年度の数学を除いて毎年偏差値50以上となっており、特に国語につきましては偏差値が52というような安定した高い学力の定着が図られているということがわかるかと思えます。

3 ページです。総合質問紙調査結果の概要でございます。数値は肯定的回答の割合を表していることを原則としています。ここでは生活習慣や家庭での学習習慣に関すること、学習に対する意識等に関することの代表的な項目をお示ししております。太線枠で囲んでいますところは、県の値を超えたところ、色付きのところは県の値を5ポイント以上超えたところでございます。上段の自己認識や社会性等の項目では、上から2つ、「自分にはよいところがある」「夢や目標がある」や1番下の「地域の行事に参加している」という項目で肯定的回答が大分県全体の数値よりも小中ともに高くなっております。

次に、生活習慣や家庭での学習習慣でございますが、上から2番目の「自分で計画を立てて家庭学習をしているか」においては、小中ともに県平均の値を5ポイント前後下回っており、自主的な家庭学習という点では課題が認められます。また、上から4番目の「テレビゲームなどの実施時間」においては、2時間未満の児童生徒の割合が小学校では県平均よりも高いのですが、中学校ではそれを下回るという状況にあります。

4ページです。学習に対する意識の項目でございます。

まず、教科に関すること、具体的には各教科に対する好意度や理解度につきましては、小中学校ともにおおむね県平均と同程度の結果となっております。

その下、授業での学習状況でございます。上から2つ、「話し合い活動のときに自分の意見を積極的に発言するか」や「わからないことがあったときにそのままにせずに誰かに聞くか」については、小学校は県平均と同等もしくは上回っていますが、中学校になると2つの項目ともに下回る結果となっており、中学校段階における表現力等の向上を図っていく必要があるかと考えております。

次に、5ページから7ページにかけて現状と分析を示させていただいております。詳細につきましては、校長会、教頭会で説明し、今後の改善に向けた取組に生かしていくところでありますので、ここではポイントとなる項目のみ説明をいたします。

5ページをご覧ください。まず、小学校です。現状の(1)には全体的結果を、(2)には各教科や総合質問紙における課題が認められた領域や問題内容等を具体的に示しております。

分析でございますが、はじめに、過去5年間安定して偏差値50を上回っていることは「新大分スタンダード」に基づく授業改善が継続して進められていることを示しています。一方、偏差値が低下する傾向にあることは授業内容の質の向上を図る必要があるといった全体的分析を示した上で、各教科や総合質問紙に関する分析を示しております。

次に、中学校です。6から7ページをご覧ください。小学校と同様、現状の(1)には全体的結果を、(2)以降には各教科や総合質問紙における課題が認められた領域や問題内容等を具体的に示しております。

7ページの分析でございますが、これも小学校と同様に、はじめに、昨年度まで改善が進んでいた中学校1年段階における学力の定着・向上がやや足踏み状況となったことから、具体的な評価基準をもとに、適切に課題やまとめを位置づけた授業への転換を

図る必要があるなど、はじめに、全体的分析を示した上で、各教科や総合質問紙に関する分析を示しております。

最後に、これらの現状と分析を踏まえた今後の取組でございます。8及び9ページに示しております。

ここに示す今後の取組につきましては、この後、報告第14号により説明します、全国学力・学習状況調査の結果も踏まえて、小学校、中学校共通して取り組むことを6項目、さらに、中学校独自で取り組む項目を5項目、提示しております。なお、(4)、(7)、(8)に示しております下線を引いた部分は今年度からの新しい取組となっております。詳細につきましては、これも現状や分析と同様、校長会、教頭会において説明し、今後の改善に向けた取組に生かしているところでありますので、ここではポイントとなる項目のみを説明いたします。

まず、8ページの1番上、小中共同項目につきましては、(1)に学力向上にかかる3つの柱による取組の推進として、授業改善、補充学習、家庭学習の充実に関する具体的取組を示しております。特に、家庭学習につきましては、総合質問紙の結果も踏まえ、自主的、計画的といったキーワードも意識した取組としていく必要があると考えています。また、新たな取組として(4)に校種間の連携の推進を提案しております。

続いて、中学校独自の取組につきましては、9ページにありますが、(7)に示しておりますが、今年度県教委が中学校の国語、社会、数学、理科、英語の5教科について、学習内容の振り返り等に活用できる問題データベースをネット上に掲載しておりますので、授業や家庭学習、補充学習等への積極的活用を図ってまいります。また、(8)にありますように、学校が生徒と授業像を共有することによって、主体的な学習集団への転換を図っていくことを推進してまいります。

これらの資料につきましては、既に各学校に送付しており、この分析をもとに各学校では自校の結果について良かった取組はどんな取組が効果的であったのか、また結果の出なかった教科については何が足りなかったのか、今後新たな一手をどう打つのか、等について分析・考察を行い、具体的取組を2学期から実践していくこととなります。なお、学校ごとの結果や分析等につきましては、今週を中心に各学校で開催されております学力向上会議において保護者や地域の方にも調査結果について説明をし、御意見をいただいているところです。

続いて、別冊3をご覧ください。

報告第14号、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果について御報告いたします。1ページをご覧ください。はじめに、調査の概要についてでございます。

実施日は平成31年4月18日、対象学年は小学校6年生と中学校3年生、調査内容につきましては、小学校6年生は国語、算数の2教科、中学校3年生は国語、数学と今年度初めて実施されました英語を加えた3教科、さらに、小中ともに学習や生活に関する質問紙調査でございます。なお、全国調査の結果は正答率で示されます。正答率は全設問に対して、児童生徒が正答した割合です。集団の場合は平均値となります。

2の調査結果でございます。着色部分は全国平均以上のところでございます。表は上から順に、日田市、大分県、全国の結果です。全国比は全国の平均正答率を100とみたときの日田市の割合でございます。

はじめに、小学校6年生の結果でございます。表の着色部分でわかりますように、実施した2教科ともに県、全国平均以上となっております。特に国語は全国平均を4ポイント上回る結果となっております。

次に、中学校3年生の結果でございますが、同じく着色部分でわかりますように、実施した全ての教科で全国平均以上となっております。また、小中あわせた結果を踏まえますと、昨年度初めて小学校6年生及び中学校3年生の全ての教科で全国平均以上となりましたが、今年度も同様の結果となり、2年連続で全ての教科において全国平均以上となったことは大きな成果であると捉えているところです。

2ページをご覧ください。小学校6年生及び中学校3年生の過去5年間の平均正答率の全国比の推移を示しております。まず、小学校6年生におきましては、平成29年度の算数を除いて100以上となっており、安定して学力の定着が図られていることがわかります。なお、理科につきましては、3年に1度の実施となりますので、平成28年度と29年度及び今年度は実施されておりません。

次に、中学校3年生におきましては、グラフに着目いただきますと、どの教科も年を追うごとに上昇していく傾向にあり、授業改善や家庭学習、補充学習等の学力向上についての取組が着実に成果となって表れていることがおわかりいただけることと思います。なお、理科につきましては、3年に1度の実施、英語につきましては今年度のみの実施となっております。

続いて、3ページの同一集団の結果についてでございます。現

在の中学校3年生を小学校6年生まで遡って同一集団として結果の推移を表したものでございます。学年によっては、調査教科や調査内容に違いがありますが、着色している部分が全国平均を上回ったところでございます。ご覧のように、中学校1年次の英語を除いては全国比や偏差値がそれぞれ100または50以上となっており、安定して学力が定着してきたことがわかります。特に、中学校英語につきましては、1年次には偏差値50を下回ったものの、2年次には県平均に並び、3年次には県平均を上回る結果となっており、着実に学力が向上してきたことが評価できます。

続いて、4ページでございます。質問紙調査結果の概要でございます。数値は肯定的回答の割合を示しております。ここでは、生活習慣や家庭での学習習慣に関すること、学習に対する意識などに関することなど代表的な項目を示しております。県調査と同じように太線枠で囲んでおりますところは全国の値を超えたところ、着色しているところは全国の値を5ポイント以上上回ったところでございます。

まず、4ページの自尊意識や規範意識等におきましては、小中ともに全国平均を上回った項目は「学校の決まりを守っているか」という項目であり、このことは咸宜園教育の中の「治めてのち学ばせる」という理念が市内小中学校に浸透しているとも捉えることができます。

次に、基本的な生活、学習習慣におきましては、計画的な学習についての項目でやはり小学校6年生段階では全国平均以上であるのに対し、中学校3年生の段階では全国平均以下となっておりますことに課題が認められます。一方、社会や地域とのかかわりに関する質問においては、地域行事への参加についての項目で、小中ともに全国及び県平均を大きく上回っており、ふるさとに誇りや愛着を持つ児童生徒の育成を図る上において、良好な結果を示しております。

5ページをご覧ください。教科に関することに関しましては、国語の勉強が好きと回答する児童生徒が小中ともに全国平均を大きく上回っており、このことは小中ともに国語が高い結果を示したこととの関連も考えられます。また、授業改善、学習指導に関する質問につきましては、上2つの「考えを持つ、高める」といった項目が小中ともに全国平均を上回るのに対し、1番下の発表に関する項目は小中ともに全国平均を下回っており、表現力や情報発信に関して課題が認められることと捉えているところでございます。

次に、6から8ページに現状と分析を示させていただいております。詳細につきましては、既に各学校に通知しておりますので、ここではポイントとなる項目のみ説明いたします。

6ページをご覧ください。まず、小学校です。現状の(1)には県調査同様、全体的結果を、(2)、(3)には各教科や児童質問紙における課題が認められた領域や問題内容等を具体的に示しております。分析でございますが、はじめに記述式の活用に関する問題への対応や数学的な表現を用いて説明する力の育成等、全体的分析を示した上で各教科や総合質問紙に関する分析をしております。

次に、中学校です。7ページをご覧ください。小学校と同様、現状の1には全体的結果を、2、3には各教科や生徒質問紙における課題が認められた領域や問題内容等を具体的に示しております。分析でございますが、これも小学校と同様、はじめに長年の課題であった数学が2年連続で全国値に達したことなどから、授業改善、補充学習、家庭学習の3本柱で取り組んでいる学力向上に関する取組が組織的に機能するようになった等全体的結果を示した上で、各教科や総合質問紙に関する分析をしています。

最後に、これらの現状と分析を踏まえた今後の取組でございます。9及び10ページに示しております。ここに示す今後の取組につきましては、先ほど報告第13号により報告をいたしました内容と同様となりますので、ここでは説明を割愛させていただきます。

先ほども申し上げましたが、これらの資料につきましては、既に各学校に送付しており、各学校の実態はそれぞれ異なりますので、しっかりと成果と課題を分析し、全教職員で今後の課題を共有し、組織的に取り組んでいくということが重要であると考えます。

学校教育課としましては、これらの取組が徹底するよう、今後も校内研究会や学校訪問、また中学校の教科部会等において、指導助言を行い、今後の安定した結果へ繋げていきたいと考えております。また、学力向上は常に学校教育における大きな課題でございますので、家庭と一体となり、地域の御支援をいただきながら一緒に取り組んでいきたいと考えております。今週から各学校の学力向上会議が始まっておりますので、調査結果を示しながら御理解と御協力をお願いしたいと考えておるところでございます。

私からは以上でございます。

教 育 長	報告第13号が大分県の学力定着状況調査結果、そして報告第14号が全国の学力・学習状況調査結果についての説明でございました。これについて何か御質疑、御意見等ございませんでしょうか。校長会等での説明は行っていますか。
学校教育課長	大分県調査については、7月の校長会で全て説明しております。全国調査については8月で説明しますが、学力向上会議の分析に間に合わないので、事前に資料提供はしているところです。
諫本教育長 職務代理者	なかなかすばらしい成績でよかったなと思っています。特に、もちろん学力そのものもいいんですけど、地域とのかかわりとか、地域行事に参加するとかということについては、4年生・5年生、中学2年生・3年生でも、かなり率が高いので、さっき説明があったように、これから地域を大事に思うとか深くかかわっていくってことを含めて、非常にいいことかなと思っています。学力はいいと。それから、勉強は好きかっていったら6年生、3年生のアンケートでは大体好きですっていうことですけど、4年生、5年生と中学校2年生についてはどれぐらい好きですかっていうところのほうがいまいちというふうになるので、5年生と中学校2年生でまだ好きという感覚が若干低い部分が小学校6年生、中学校3年生になると好きっていう、同一集団ではありませんけれども、割合が増えてきているというようなことで、学力も上がったこと、それから英検とか漢字検定とかいろんなことに挑戦する中でだんだん好きになってきたというふうに思われるのかなというふうに思ったんですが、いかがですか。
学校教育課	おっしゃるように、やっぱり小学校においては6年生が最終段階にいて計画的に育成していく、中学校であれば3年生。その間にはおっしゃったように、いろんな漢字検定、英検もチャレンジ精神、それから中学校でいいますと学びアップ事業とか底上げの、わからなかったところがわかるようになる、その勉強の楽しさを味わうということで、1、2年生で底上げで3年生になっていくというようなことで捉えています。
諫本教育長 職務代理者	とてもいいことだと思いますけど、よろしくお願いします。
教 育 長	いろんな角度から結果分析をやっていると思うんですけども、そのほか御意見ございませんか。

古 田 委 員	<p>中学校3年生の英語の勉強は好きですかっていうところが全国学力調査の5ページの上のほうなんですけども、中学校3年生の英語の勉強好きですかという項目は平均値が少し低いかなって思ったんですけど、小学校から英語教育っていうのが始まって、小学校の英語の勉強ってすごい楽しそうなんですよね。盛り上がって。それがだんだんこう難しさに気づいていくという、仕方ないことなただけども、中学校にあの楽しさをそのまま引き継ぎながら英語を身に着けるような方法があればいいなとこれを見て改めて思いました。</p>
学校 教育 課 長	<p>やっぱり楽しさは学びの出発点だと思います。そういった点では、小学校は来年度から全面実施で、日田は先行実施しておりますが、小学校3年からやっています。やっぱり教員の指導者の連携っていうのが必要だと思いますので、これにつきましては、今三和小学校が市の研究指定で外国語活動に関する研究をしております。この研究会、中学校の教員が参加したり、そういったこともやっておりますし、英語専門の指導主事を今年から配置しておりますので、そういったことで小中連携を図ったり、やっぱり楽しく学ぶという学びの原点がつかないでいくようにまた取組を進めてまいりたいと思います。</p>
奥 平 委 員	<p>小学校の高学年、あと中学校の2年生ぐらいになると、クラスの友達の間で話し合いをするときに自分の意見を積極的に発言できなくなる、また中学校3年生でも自分の考えを発表する機会ではなかなかポイントが上がっていないっていうところで、今からの子供さんはやっぱり自分の意見を前に出していかなきゃいけない時代になると思うので、このあたりに力を入れていただいたほうがいいのかと、これを見ながら思いましたけど、いかがでしょうか。</p>
学校 教育 課 長	<p>私どももこれから社会に出ていく子供たちは、情報発信力、表現力が非常に大事だと思っております。今、授業改善が進みつつあって、いわゆる講義形式の授業から、中学校でのグループ活動や班討議をしたり、改善の途中でありますので、この取組を継続して、安心して表現が自由にできるような授業場面というのを多く取り入れていきたいというふうに考えています。</p>
岡 部 委 員	<p>中学生の数学がちょっと弱かったですね。例えば、最近ちょっと上がってきて、全体的に上がってきたと。数学が何か特別に上</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>がってきた理由はあるんですか。やり方は変わらないですか。</p> <p>まず1点は、中学校の数学は県全体の大きな課題でありまして、県教委の指導主事が学習巡回指導ということで、各学校に年間2回程度直接入って、直接指導します。このときには、市の学力担当指導主事も同行して、授業を見て、指導、助言にあたります。日田市としては、昨年度まで東部中学校が国立教育政策研究所の研究指定を数学で2年間受けまして、そこでいろんな実践を重ねましたので、それを市内に周知したり、そういうようなことが少しずつ結果に表れたかなと捉えております。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>先生方の取組の成果の表れだというふうに思っておりますので、なかなか忙しい中頑張っておられるということなので、校長会等を通して、伝えることができるようにしていただきたいと思っております。</p> <p>また、今後の課題が子供たちが学力定着してきつつあるので、やっぱり学ぶ喜びであるとか楽しみであるとか好きになるとか、その辺がこれからの、あるいは先ほど出ていた主体的であるとか、計画的であるとか、日田市の総合計画の「学ぶ喜び、学ぶ機会に満ちるひた」ということをうたってますので、そういうような方向で子供たちが学ぶことを楽しんで、喜んでくれるように教育ができれば望ましいかなと思うところでございますので、また御指導のほうよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、以上で報告事項を終わります。</p> <p>その他についてお願いします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>9月の定例教育委員会の日程についてでございます。9月27日の金曜日、13時30分から勉強会、15時から定例教育委員会をお願いしたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>9月の定例教育委員会が27日ですね。ということで、よろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、9月27日ということでよろしく願いいたします。</p> <p>ほかにございませんか。よろしいですか。それでは、以上をもちまして、定例教育委員会を終了いたします。</p> <p>お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: right;">終了時刻：午後3時43分</p>

